

日野宿発見隊 通信

創刊号

発行／日野宿発見隊（日野図書館内） 042158410467

地域の方々と共に

日野図書館の呼びかけで始まった日野宿発見隊の活動も、四年目になりました。少しでも地元のために役に立てればとの想いで参加しました。これまで本当にたくさんの人に手弁当で協力していただき感謝感謝です。

「まちかど写真館inひの」や夏の「夕涼み会」など、商店会としても屋台を出して参加してきました。まちのお宝を発見する活動が大きく広がって、このような地域住民と行政が一体となつての取り組みはあまり例がないといわれるほどの評価を頂きました。

これからはこの活動をもっともつと地域住民と一体となつて進めるために、「通信」を発行することになりました。自治会回覧などを通してこの「通信」もまたみんなで作っていくことが出来たら幸いに思います。

日野宿発見隊代表
ふれあい商店会会長 滝本光男

平成二十一年度

日野宿発見隊事業計画

- 1、屋号看板製作
- 2、日野駅開駅一二〇年に向けて
- 3、定例まち歩き会 秋 春
- 4、夏まつり 子ども横丁 夕涼み会
- 5、まちかど写真館inひの 八坂のまつり
- 6、日野一中特別授業
- 7、日野宿交流館写真展 通年
- 8、「日野レンガ」解説板 設置に向けて
- 9、まちかど写真館inひの 日野用水・今昔

詳細は日野図書館まで
042158410467

地域の催し物

まちかど写真館inひの

「日野用水・今昔」

六月十三日～七月三十一日
大昌寺前

日野本町二・十二・十三

四谷自治会盆踊り大会

七月十八日（土）十九日（日）

十九時三十分～

日野宮神社境内

栄町二・二七・十九

宝泉寺閻魔堂御開帳

七月二六日（日）十時～

宝泉寺境内

日野本町三・六・九

こども発見隊

「用水であそぼう」

八月一日（土）九時三十分～

東光寺用水（予定）

市立新東光寺地区センター付近

栄町三・十四・一

ひのアートフェスティバル

八月二十二日（土）二十三日（日）

自然体験広場（旧農林省蚕糸試験場跡地）

日野本町六・一

夏まつり

子ども横丁／夕涼み会

八月二十九日（土）

大昌寺駐車場／日野宿交流館

（予定）

ひのアートフェスティバル

毎年八月に自然体験広場で開催されてきた「ひのアートフェスティバル」は、今回で十三回目を迎えます。「自分たちが生活する身近なところを拠点にアートに触れて、楽しみ、育てよう」の思いから市民有志が中心となり始まりました。

会場は日野駅から歩いて一〇分ほどの緑あふれる森の中、農林省の蚕糸試験場の跡地で、セミの鳴き声が森をつつみ、古い建物が静かに佇みます。

十三回目を迎える今回は、八月二十二日（土）二十三日（日）の両日に開催します。野外ステージの演奏や舞踊、絵画彫刻等の展示、バザー、手作り広場、模擬店など、誰でも気軽に参加でき、楽しめる内容のものにしていきたいと考えています。

またゴミの減量などを通してこの会場の貴重な自然環境の保護やエコに対する考えを広めていきたいと思っています。

ここでのさまざまな出会い、体験が夏の大切な想い出となることを願っています。

ひのアートフェスティバル

趣意書（抜粋）

日野煉瓦と J R 中央線の鉄橋

昨年 12 月、日野駅前で煉瓦【れんが】積みの養蚕用炉の調査が行われ、数 100 個の煉瓦が出土した。煉瓦の何点かには『HBW』の刻印が押されているが、これは多摩地域でいち早く創業した「日野煉瓦製造所」製の煉瓦を示す刻印で、『HBW』は「HINO BRICK WORKS」の略であろう。

日野煉瓦製造所は、明治 20 年から 21 年土渕英によって設立され、高木吉造・河野清助が経営に参加し、横浜出身の横田金左衛門（煉瓦製造の専門家）を招いて工場長とした。工場は日野宿字下川原（日野警察署北側）に置かれた。しかし、この製造所は 2 年後土渕英の急死によって廃業してしまった。

この間の煉瓦の生産量については不明であるが、明治 22 年の甲武鉄道（現 J R 中央線）日野停車場設置のための資料である「日野停車場輸出入荷物調査表」には当時 50 万個の煉瓦を製造していたと記載されている。現在確認されている日野煉瓦の出荷先や使用されているものは、①旧日光橋（福生市熊川）、②養蚕用炉（日野宿およびその周辺）、③高木家煉瓦塀、④飯綱権現社・河野家稲荷社である。残る大量の煉瓦はどこへ出荷されたのであろうか。

工場の会計主任であった河野清助の日記の明治 22 年 1 月 27 日の項には「土渕英東京より帰宅、鉄道局へ煉瓦売込約定す」との記述がある。当時の甲武鉄道は私鉄であったが、施工を鉄道局に委託していたことと、工場の操業期間内に鉄道建設が行われていたので日野煉瓦が甲武鉄道の建設に使用された可能性は高いと思われる。

工場があった下川原は煉瓦を最も必要とする多摩川鉄橋（試算では約 20 万個）に近く、同じころ煉瓦を使用して作られた浅川鉄橋や立川村の根川橋梁【きょうりょう】・山中眼鏡橋・山中陸橋にも便がよく、甲州街道にも面している。大量に使用する粘土は、工場南側の藺沼【いぬま】周辺で採取でき、非常に好都合な場所であった。

また河野家の煉瓦からは、橋脚の「水切り（川の流れが当たる所）」部分に使用される長手面（煉瓦の最も細長い面）が湾曲している煉瓦が発見されて、日野煉瓦工場が橋脚用煉瓦を製造していたことを裏付け、土渕英が鉄道局に売り渡した日野煉瓦は甲武鉄道建設に使用されたということができよう。

100 年余の時を経て日本の大動脈－ J R 中央線多摩川鉄橋は、今も日野の人々の手によって作られた日野煉瓦の橋脚によって支えられている。

原稿：広報ひの平成9年04月01日号より転載



多摩川鉄橋上り線南詰め



下堰用水上

日野煉瓦の風景



上堰用水上